【ワック出版 新刊のご案内】

『激突！裁判員制度 井上薫 vs 門田隆将』

— 裁判員制度は司法を滅ぼす vs 官僚裁判官が日本を滅ぼす —

裁判員制度「是」か「非」か！？ 元裁判官 vs ジャーナリスト

この一冊ですべてがわかる！

(四六判並製・280頁・定価1300円〔税込〕・3/13配本)

謹啓

このたび、弊社は『激突！裁判員制度 井上薫 vs 門田隆将』を刊行いたしました。皆様ご多忙とは存じますが、ぜひご高覧賜りたく、謹呈させていただきます。

2009年5月よりスタートする裁判員制度——その是非について、多くの議論がなされています。しかし、そのほとんどが法理論やシステムにのっとった批判本であり、国民の最大の疑問である「この制度は本当に必要なのか、もし必要ならばなぜ？」という疑問に、正鵠を射た答えを提示してくれるものは、いまだにないと言わざるを得ません。

本書では、先般の“江東区神隠し殺人判決”、“光市母子殺害裁判”、“福岡飲酒運転3児死亡事故判決”、“高知白バイ事故裁判”……等々、個別の裁判に言及して日本の裁判の現状をひもときながら、裁判員制度を論じていくという構成をとっております。

議論を闘わせたのは、光市母子殺害事件の9年の軌跡を追った『なぜ君は絶望と闘えたのか』（新潮社）や『裁判官が日本を滅ぼす』（新潮文庫）を上梓しているジャーナリストの門田隆将氏と、『つぶせ！裁判員制度』（新潮新書）の著者であり、「蛇足判決理論」の提唱者、元裁判官の井上薫弁護士です。

ジャーナリストとして数々のトンデモ判決を目の当たりにし、司法の歪みを痛感、裁判員制度容認の門田氏、そして元裁判官の立場で、素人にはとても事実認定、法令の適用、量刑の判断などできるものではないと、「司法崩壊の可能性」を訴える井上氏……。

双方の意見には、どちらにも理があり、そして情があり、読者としてどちらに賛意を示すのか、非常に悩ましい選択を迫られると思います。しかし、それだけに大変読み応えがあり、「裁判員制度」がどういうものか、この1冊ですべてがわかる内容になっています。

ぜひ本書をご紹介、ご高評いただける機会が得られますよう、ご検討のほどお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の一層のご活躍、ご発展をお祈り申し上げます。

敬具

2009年3月9日

〒102-0074

東京都千代田区九段南3-1-1 久保寺ビル6F

TEL:03-5226-7622 FAX:03-5275-5878

e-Mail:komori@web-wac.co.jp

ワック出版 編集部 小森明子